



みみだより

松江ろう学校 支援部

No. R2-4 2020. 12. 18

早いもので今年も残りわずかとなりました。今年はコロナという未知のウイルスに翻弄された年となりました。平穏な日常のありがたさを再認識しつつ、今後も健康に留意して過ごしていきたいですね。

さて、今号では、「冬の補聴器・人工内耳の管理」、「高等部の自立活動の紹介」、「聴覚障がいのある先生から」「手話が共通言語となる国内初のスタバ」についてお伝えします。



冬の補聴器・人工内耳の管理

みみだより第1号では、補聴器・人工内耳の汗対策やお手入れ方法についてお伝えしました。冬になると、冬ならではの補聴器・人工内耳の管理が必要になります。もうすぐ冬休みに入ります。これを機会にご家庭でも補聴器・人工内耳の管理について話題にいただけたらと思います。

結露に注意！

冬は暖房によって、室内と室外の気温差が大きくなります。そのため、チューブやイヤモールドなどに結露が生じ、トラブルの原因になります。（音が小さくなったり、こもって聞こえたりすることがあります。）

↓
補聴器を外したら、できるだけ早く乾燥剤の入ったケースに入れ、しっかり乾燥させましょう。イヤモールドやフック、チューブ等の水滴は、こよりなどで吸い取りましょう。

熱に注意！

冬はストーブなど暖房を使う機会が増えますが、補聴器は熱に弱いです。

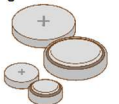
↓
補聴器をストーブの近くなど高温になる場所には置かないようにしましょう。



電池の寿命が短くなる！

補聴器に使われる空気電池は、気温が低いところや乾燥しているところでは、電池の減り方が早くなります。

↓
必ず、予備の電池を持ち歩きましょう。こまめに電池の残量チェックをしましょう。電池が冷えている場合は、体温で少し温めてから使いましょう。



高等部の自立活動の紹介

ある生徒の取組を紹介してもらいました！

自立活動で使っている「記録ノート」についてご紹介します。様々な自立活動の学習内容を一冊のノートに記録していくことで①生徒自身が情報を管理しやすくなった、②学習の積み上げを実感できるようになった、という二つのメリットがありました。

使い方は、まず自分の考えや気持ち・解決したい問題などを文字・イラスト等を使ってノートに書き出します。初めは教員が質問しながら書き出すこともありましたが、基本的には生徒が書きます。次に、教員との質疑応答形式で内容を深めていきます。そして、前に書いたことを読み返し、その時に必要なことの参考資料として使ったり、気がついたことを書き加えたりします。

口話や手話では消えてしまう情報を、ノートに書いて目に見える形にすることで、情報が足りないところ・分からないところ・事実か想像か・自分の気持ち・相手の気持ちなど、頭の中が整理しやすくなりました。

およそ1年前から始め、現在4冊目を使っています。目標設定や計画作成・ロジャーマイクの使い方の方の工夫・部活動引退の挨拶原稿・自分の気持ちの伝え方など、色々なことがノートに記録として残っています。今では自分から進んで書くようになっていて、自分を励ますコメントや、ツッコミを入れたり、自分と対話している様子が見られます。心が落ち着いたり考えが深まっていくという実感もあるようです。また、読み返すことで初めて気づく自分の変化や成長に驚くこともあるようです。



聴覚障がいのある先生から

本校高等部卒業の石田秀平先生に話を聞きました！

私は12年前本校高等部を卒業しました。まさか自分がここに赴任する日が来るとは夢にも思いませんでした。日々懐かしさを感じながら学校生活を過ごしております。今回は、海外旅行での体験談を書きたいと思います。

今から4年前、友人とイタリア(ミラノ)へ旅行に行きました。初めての海外旅行で緊張しましたが、現地に着くと街並みや景観は、日本では味わえないほど美しく、街全体の建物が芸術的で感動しました。まるで、異世界に行ったような不思議な感覚でした。時々日本語で話してくれる人がいたこともあり、すぐに馴染みました。ある日、「アイダ」というオペラを鑑賞するためにヴェローナのアレーナ・ディ・ヴェローナに向かいました。4時間にもわたるオペラ公演のため、座席の座布団を屋台で購入することにしました。友人は半額で購入することが出来たそうで私も半額で買いたい！と思いました。私はジェスチャーや英語を使って粘ったところ、なんとか半額で購入することが出来ました。その時の嬉しさは今でも覚えています。

先日、友人と会って食事をしたときに、当時のことを振り返りました。その時友人のある一言で考えさせられることがありました。「外国に行ったら聴覚障がいは関係ない。みんな同じ条件」と言われました。コミュニケーション手段はいろいろありますが、大事なのは相手に伝えたいという思いからコミュニケーションが始まると私は思います。聴者と聴覚障がい者が、お互いに話せない、伝わらないだろうと両者との間に壁を作ってしまう話はよく聞きます。だがそれでは両者にとっても将来のことを考えると良くないです。どうすれば相手に伝わるかという伝えたい気持ちと、伝わるまで諦めない心を持つことが大事だということをイタリアで身を以て実感しました。これは聴覚障がいの有無に関わらず全員が共通して言えることだと思います。

ただ、次にイタリアへ行くときは、イタリア語を勉強してから行きたいと思います…。



手話が共通言語となる国内初のスタバ

今年6月、手話が共通言語となる国内初のサイニングストア「スターバックス コーヒー nonowa 国立店」がオープンしたことをご存じでしょうか。nonowa 国立店は、25人の従業員のうち、19人が聴覚障がいがあります。従業員同士のコミュニケーションを円滑に行うため、スターバックス独自の手話を考案したり、文字と振動で情報を伝えるデジタルウォッチ(タイマー機能や遠くにいる従業員を呼び出す機能を搭載)を導入したりしているそうです。利用者向けには、オーダー時に手話や筆談に対応するほか、指差し注文用にサイズや温冷の選択ができるメニューシートを取り入れ、商品の受け取り場所には電子黒板を設置し、受け取り番号の表示や日常会話の手話紹介に活用しているそうです。

また店内のアートを手がけたのは、手話をモチーフにした作品や手話をする動物などポップなイラストを得意とする門秀彦(かどひでひこ)さん。門さんはコーダ(ろう者の親をもつ聴者)で、音声言語や手話では伝えきれない思いを表現するために幼少期から絵を描き始められたそうです。店舗のコンセプトは“*Infinite Possibilities*(無限の可能性)”。聴覚障がいのある従業員や利用者にとって、ありのままの自分で居られる場所、障がいのある若者にとって夢や未来を描ける場所、店舗を訪れた誰もが新たな気づきを得られる場所になればとの思いで、オープンされたそうです。ぜひ一度行ってみたいですね。

